びわ湖大津歴史百科

第2回ワークショップ

2016年 10 月 8 日(土)

石山貝塚考

-縄文・ヒトとびわ湖と生活と――

講師:鈴木康二

(公財) 滋賀県文化財保護協会 副主幹



当日のスケジュール

受付開始:13:00

講 演:13:30~15:30 鈴木康二 (公財)滋賀県文化財保護協会 副主幹

見 学:15:30 石山貝塚の剥ぎ取りの観察と現地説明会

終了予定:16:30

場 所:講演 石山寺 塔頭 明王院(〒520-0861 大津市石山寺 1-1-1)/見学 石山観光会館

参 加 費:無料 定 員:50 名

申込方法 及び 問 合 せ ホームページの申込フォームにてお申込みください(先着順)

ホームページ: www.rekishihyakka.jp

メール: info@rekishihyakka.jp

TEL: 077-522-2238/FAX: 077-522-2221

主催:大津市浜大津・石山地区文化遺産活用実行委員会 後援:滋賀県、滋賀県教育委員会、大津市、大津市教育委員会

平成 28 年度文化庁文化芸術振興費補助金 (文化遺産を活かした地域活性化事業)



講演概要:「石山貝塚考―縄文・ヒトとびわ湖と生活と―」

石山貝塚は、今からおよそ7,500年前頃に形成され始めた可能性が高い、びわ湖のほとりに最初にできた縄文時代の貝塚です。石山貝塚から出土した遺物には、セタシジミやタニシなどの貝殻や、ナマズやコイなどの魚骨、スッポンやハクチョウなど鳥獣類の骨が多数あり、実に多様なびわ湖・瀬田川で得られた幸を糧として、日々の生活を営んだ可能性が指摘できそうです。

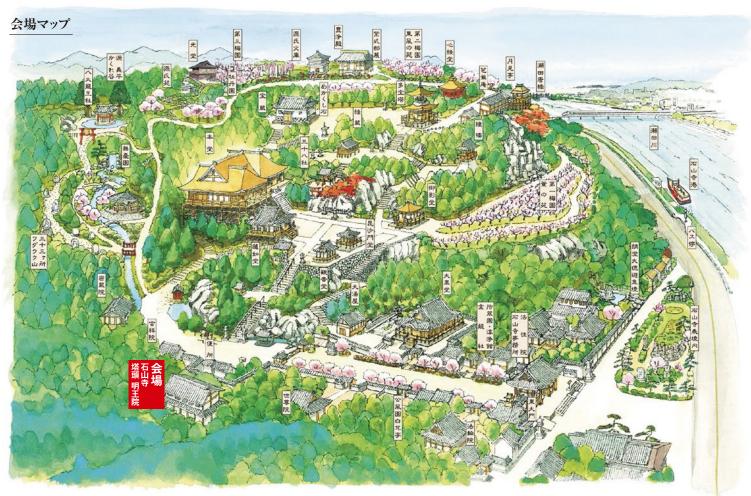
またこの貝塚では、炉が設けられたり、お墓が作られたりしていたことも判っています。石山貝塚というその「場所」を舞台に、当時の人々のそこでの生活の一端を垣間見ることができそうです。そこではどんな生活が営まれていたのでしょうか。

今回は、びわ湖湖畔に貝塚が形成され始めた頃の縄文時代の生活・文化を、石山貝塚の様子を中心に、周辺の事例も参照しながら、様々な側面から考えてみたいと思います。



講師プロフィール 鈴木康二(すずき こうじ)

(公財)滋賀県文化財保護協会副主幹。佛教大学非常勤講師。修士(文化史学:同志社大学)。専門は先史学(考古)・博物館学(博物館教育論)。『総覧縄文土器』2008年、『さわって楽しむ博物館』2012年(いずれも共著)ほか。最近は、びわ湖の縄文貝塚を題材に、縄文時代の人々の生活・文化とその継承、そしてヒトとびわ湖との関係性を読み解くために、縄文時代の道具、特に縄文土器や石器を中心に研究しています。



会場へのアクセス

- 京阪 石山寺駅(石坂線)より 徒歩10分
- JR石山駅(東海道線)より石山駅京阪バス石山寺山門前 下車 すぐ

次回予告

びわ湖大津歴史百科 第3回ワークショップ

「滋賀の文化遺産を次代へ伝えていくために」

講師:西本梛枝 文筆家(旅行作家)

日時:2016年11月6日(日)

詳しくはホームページをご覧ください www.rekishihyakka.jp

本プロジェクトについて

本プロジェクト「びわ湖大津歴史百科(正式名称:大津市浜大津·石山地区の文化遺産を活かした地域活性化事業)」は、大津市浜大津·石山地区文化遺産活用実行委員会(会長:木村至宏)が、日本を代表する寺院である石山寺と三井寺が連携し、点ではなく帯として、大津市石山〜浜大津地区に点在する豊富な文化遺産の情報発信を行ない、保護と活用について包括的な啓発事業を実施することで地域の活性化を目指すものです。各種イベント(ワークショップ4回、フォーラム)、インターネットやアプリを用いた情報発信等を行います。

本プロジェクトは、平成28年度文化庁文化芸術振興費補助事業(文化遺産を活かした地域活性化事業)として実施しています。

主催:大津市浜大津・石山地区文化遺産活用実行委員会